

フレーザー幼稚園の子どもの生活

子どもは、かけがえのない一人としてこの世に生まれています。

生まれてきた赤ちゃんは、この世界と初めて出会い、どんな世界かを知るために、毎日毎日、興味を持って探索しています。詳細な情報を得るために赤ちゃん時代の五感（五感）は最高の性能を持ち、耳をすまし、肌で感じたり、体で触ったり、匂いを嗅いでみたり、口に入れて確認したりと全身の神経を集中させて、自分の周りにある世界を知るための行動をしています。

こどもが、生まれたときから持っているそれぞれの能力を次々に引き出して探索する行動は驚くばかりに活動的で、絶えず忙しく動き回って情報を収集しています。こどもは生きているから内にある力、感じている物を外に表さずにはいられません。探索行動の中で、発達が未熟なために上手くいかないことも多く、時には危険なこともあるので、周りにいる大人を驚かせて不安にさせてしまうことがあります。こどものことをよく知らない人や、こどもの見えにくい力に気づけない人は安易に「落ち着きのないこども」のレッテルを貼ってその子の内にある力に気づけないことも屢々です。

赤ちゃん・子どもの発達を分かっている人は、こどものすることには、一つ一つにちゃんと意味があり、無駄なことは何一つとしてないこと、必要があって行っていることを知っているの「どうしてこうしなくてはいけないのかな？」と丁寧に観察をしています。よく見ている内に、こどもがどうしてしたのかが分かったり、こどもの中で発達している力に気付く事ができます。

コロナ禍前には、親になるのが初めてで不安が多くあっても、近所の子育ての先輩や友だちに「うちの子もそんなことあったよ。」と言ってもらうだけで心が軽くなりました。初めての子育てをする親と話すだけで「私一人だけが不安なのではない」ことに気付いて安心できました。この3年間は新型コロナウイルス感染症感染拡大予防のために家族や母親が孤立することになり、心が軽くなれる機会が少なくなりました。コロナ禍での育児は母親にとって負担が大きく大変な時でした。乳幼児期のこどもにとっても家族以外の人から沢山の笑顔や言葉かけをいただく事で、こどもの自己肯定感・コミュニケーション能力・言葉の発達が促される時でしたのでこどもが成長するのも大変なときでした。

これからの園生活ですこしづつ不安だった育児から少しでも心が軽くなれるような日々を過ごしていただければ、と考えています。

この世界に生まれ出てくれたこどもたちは、かけがえのない一人として創られたこどもです。かけがえのない命の印として、みんな違って創られています。それは、目の前のこどもは育児書通りのこどもではないことでもお分かりと思います。

違って創られているのですから、成長もそれぞれに違ってきます。

他のこどもと比べるのではなく目の目にいるこどもの今を大切にします。今を大切にす

ると目の前にいるこどものいいところが見えてきます。何かができる・分かるとは違った視点です。例えばよく見て考えているな・・・と見えにくいこどもの良さに心を止めていきます。この良さは生涯にわたって成長する力になっていく可能性があるからです。今を大切にすることは今日のこどもを大切にすることなので、いつもと違うこどもに気付けます。ひょっとして体調が悪いのかもしれない、家ででかけるまえに何かあったのかもしれない・・・と丁寧に見守っていきます。必ずいつもと違う何かがあります。その日に必要な援助は様々です。「教育はその子の良いところを見つけて伸ばしていく」(佐々木正美)今日を大切にすることで次のこどもに必要な環境がありますので準備します。この繰り返しの中でこどもはそれぞれに発達していきます。

それぞれの持っている良さを日々受け入れられることで自分を好きになれます。

押さないときには上手くいかないことだらけです。生まれてからの経験がすくないだけ、それぞれに発達の速度が違ったり、良さが違うだけじゃで他の人と比較することはできません。大切なのはその子のいいところを見つけて伸びて行くことができるようにすることです。いいところが伸びていくと「自分のことがいいな」と思えるようになって小さな背伸びをしたくなります。小さな背伸びをするには「自分でいいな」と思えることです。

幼稚園では肯定的な言葉かけを心がけています。

それは、繰り返し「よく気がついたね」「自分で気がついたの。いいね」「気がついた自分を大切にしましょう」と声をかけます。「こうしてみようかな」と思っている事を大切にするように「やってみる?」「やってみたくなったら、やってみましょうか」等こどもが自分で気がついていることはいいことに気付き大切にしたいになれるようにします。

小さな自己決定をして行ったことがいい気持ちになれるように援助していきます。

幼稚園生活の中で「自分のことを好きになれる」生活を積み重ねます。

この繰り返しを行っていくと自分に都合の悪いことも受け入れることができるようになります。間違いや失敗に気付いている自分を受け入れることができるようになります。受け入れることができると必ず自分がやってみたい事したいことが見つかります。「よく見つけたね」「やってみないと分からないから・・・やってみたかったらやってみる?」・・・

やってみることで「いいな」と思えると次のチャレンジをしていきます。

人と比べて自分を見つけるのではなく、今の自分を「いいな」と思える生活を大切にします。

この生活の中で、こどもたちは『一人ひとりみんな違って、みんな素敵』の大切さに出会います。

違うことでそれぞれの良さが引き出されます。違う中にある自分と同じ思い・興味・関心等に喜び、喜びを共にすることで喜びが大きくなること、悲しみは共にすることで和らぐことを実感します。これを実感するために配慮が必要です。

幼稚園に入るまで、こども一人ひとりが過ごしてきた生活がみんな違います。また発達にも個人差が激しいので、幼稚園の生活は、一人ひとりの育ちを大切にしながら、保育することが大切になります。

フレーザー幼稚園では一人ひとりの発達に応じた保育をするために、こどもが主体的に行う活動の時間を大切にしています。

こどもが主体的に行う活動（屋内・屋外）に育つもの

*こども一人ひとりの発達に応じて、こども自身が自発的にやってみたくなる環境と時間を保障すると、こどもは自分の世界を広げ深める。

*自分のしたいことを見つけ、自分で決めたことをやってみて、充実感を味わい、もっと深く関わろうとする。

*遊びの中で友達のすることを見て学び、自分もやってみようとする。

*知らないことで、失敗したりや間違えることは悪いことではなく、気づいた自分を大切にすれば、次にはどんなことをしてみたらいいかを見つけることができること。見つけたらやってみればいいことの体験を重ねることで、自分に誇りが持てるようになる。

*ありのままの自分で充分であることを実感する。

*遊びの中にある友達とのかかわりの中で自分をコントロールしたり、友達と協力・連帯する喜びを実感する。

*言葉での表現が充分でないこどもには、自分を表現したいときに、表現できるもの、表現したいものを準備してもらって、体験することが必要です。言葉にならない思いを表現することで安心をしたり、満足をしたり充足感を味わいます。

*自分の生活を自分で作っていけるようになり、自分のできることを主体的にやってみようとしています。

*自分たちがやってみたいことに満足すれば自分たちで片づけたくなります。特に絵の具などで汚れたものも、拭けばきれいになることで、失敗してもやり直せることを実感します。片づけも、片づけてもらって遊具が喜んでいることを伝えると最後の一つまで「おもちゃが泣いてるかもしれないね」と探し、見つかる心から「よかったね」と喜びます。この集団の中では最後まで自分を捜し出してくれる仲間として安心して生活できるようになります。

*ありのままの自分を実感するためには、時々、一人ひとりの必要な時間を補償することが大切になりますので、時間が許す限り保障します。